文庫めぐり (21)

温知堂文庫

［来歴と概要］ 本学会名誉会員で矢数医史学賞の創設者、故・矢数道明氏（一九〇五～二〇〇二）の個人蔵書。

矢数氏は茨城県那珂郡大宮出身、一九三〇年に東京医専を卒。漢方を森道伯と長兄矢数格に師事、以後大塚敬節・弟矢数有道らとともに偕行学苑を組織し、拓殖大学漢方講座を開くなど漢方復興運動に挺身。一九三八年に東亜医学協会を結成して機関誌『東亜医学』（戦後は『漢方の臨床』）を刊行。戦時応召し南方にて医療に従事。一九五〇年、日本東洋医学会結成に協力。一九八〇年、北里研究所東洋医学総合研究所第二代所長に就任し、二〇〇二年一〇月に九六歳の天寿を全うされた。

当温知堂文庫は矢数氏が戦前より蒐集したもの。その一部は、大塚敬節・矢数道明責任編集『近世漢方医学書集成』全一一六巻（東京・名著出版、一九七九～八四）に影印収録されたことで知られる。他にも貴重文献は多く、収蔵の東洋医学関連書は和装本で八百数十部、洋装本で約三千七百部に及ぶ。ほぼ同量の非医学書も収蔵される。

当文庫の特徴は、各分野・各時代・各国の東洋医学書が流派に偏らず、まんべんなく収蔵されていることにある。和装本は保存のよい美本に富み、江戸の刊本・写本以外に、室町写本・古活字本や朝鮮版・中国版等の希覯本も少なくない。

一方、矢数氏は後世派医学史の研究に傾注され、田代三喜・曲直瀬道三や道三に連なる学統の著作を多数蒐集されている。氏の研究は昭和五十六年に「日本における後世派医学史の研究―曲直瀬道三およびその学統―」（昭和五十七年に名著出版より同名で刊行）として纏められ、慶應義塾大学より文学博士号を授与された。さらに明治前期の漢方存続運動史を研究、昭和初期からの漢方復興運動も実際に担われてきたので、近代以降の稀少な関連文献や文書を収蔵することも特徴のひとつである。

［蔵書目録］ 医書については、蔵書カードのコピーを自家製本した目録が文庫に備えられている。

［所在地］ 〒一六二―〇八一四　東京都新宿区新小川町三―四　温知堂矢数医院内　電話〇三―三六二〇―一二七五

［利用法］ 当文庫は個人蔵書のため、一般への開放はされていない。利用希望の際は必ず上記矢数医院に事前連絡し、本学会会員の旨を伝えた上で、閲覧書・日時等の承諾を受ける必要がある。

（真柳　誠）